

令和3年度第2回亀岡市環境審議会議事録

○ 開催日時 令和4年2月4日（金）午前9時30分～午前11時15分

○ 開催場所 亀岡市役所 1階 市民ホール

○ 出席者 黒田幹男委員、田部委員、櫻井委員、塚本委員、井内委員、
稲村委員、高澤委員（会長）、太田委員、黒田洋二郎委員、
吉川委員、坪井委員、浦幹事、山内幹事、関幹事
（事務局4名）

○ 欠席者 山川委員、由良幹事

○ 議事録

1 会長挨拶

2 審議事項

第3次亀岡市環境基本計画について

意見・質問	回答
2頁（3）に「国の「第5次環境基本計画」では」とあるが、計画を定めるのは国ではなく政府ではないか。ホームページでも「国（政府）」と書かれてある。	国（政府）に修正する。
3頁に「■位置付け図」とあるが、何の位置付け図か分からないので、頁のタイトルと表記を合わせた方がよいのではないか。	計画の位置付け図」に修正する。
4頁4行目に「各種施策」とあるが、各施策なのか、基本的施策なのか分かり難い。各種とは何を指しているのか。	「具体的施策」に修正する。
5頁（3）にある「アユモドキ生息環境再生整備実験地」は、「繁殖実験場」に変更されたように思うが、「実験地」という表記でいいのか。	平成26年度にアユモドキ生息環境再生実験地として整備していることから、市としては「実験地」が正しい表記となる。

6 頁（5）に「小・中学校」とあるが、「小学校・中学校」との表記の方がよいのではないか。	教育委員会にも確認した上で、「小・中学校」と表記している。
13 頁の体系図について、全体的にカラーなので見辛い方もいるのではないかな。また、SDGs のアイコンも埋もれてしまっている。	今後、色校正の中で色を薄くするなどの調整を行って対応する。
48 頁「③水辺環境の創造」の水洗化に関して、現状、水洗化率が97%位ではほぼ達成できたと考えることもできるが、3%位は残っていることになる。水洗化率を100%に近づけるように、今後の方向性を示すべきではないか。	水洗化率100%の達成に向けた方向性については、下水道分野の計画の中で示されることとなるので、本計画では、39 頁の「現状と課題」や「具体的施策と取組内容」に記載していると通りの表現としたい。
50 頁の「施策（4）農地の保全」に、「耕作放棄地の発生防止・解消」というような内容を追加してほしい。農業委員会の農業パトロールでは、1年以上耕作されておらず、この先も耕作されない農地の持ち主に対して、農地の貸し借りを提案し、耕作放棄地の防止・解消に取り組んでいる。	「施策（4）農地の保全」の「具体的施策と取組内容」に農地パトロールの取組を追記する。
50 頁の「施策（4）農地の保全」に関連して、森林や農地の保全では、人材育成が大切だと思う。丹後の水産業では、1年間の養成所を作り、全国から若者を受け入れて、積極的な人材育成がされていると聞く。本計画でもそういった積極的な方策を提言した方がよいのではないか。	新たな担い手づくりについては、農業分野の計画の中で具体的に取組こととなるため、本計画では、50 頁の「具体的施策と取組内容」の「①農地の保全」で、新たな担い手の人材・後継者の確保という表現としている。
51 頁の主な成果指標（2）の実績に、113人／年とあるが、何の数字なのか。具体的な事業等の実績なのであれば、そういった事業を指標にした方がいいのではないか。	ここでは、高校生などの若年層へ環境教育を実施した啓発人口としているが、分かり難い指標となっているので、具体的な事業等の指標に修正する。

5 1 頁の主な成果指標（2）の実績の目標が6 0 0 人／年とあるが、市の人口からすれば少ないのではないかと思う。ほかの観点で指標を検討してはどうか。	ここでは、高校生などの若年層へ環境教育を実施した啓発人口としているが、分かり難い指標となっているので、具体的な事業等の指標に修正する。
5 4 頁のエコツーリズムに関連して、外国にあるような電動キックボードについても積極的に発信してはどうか。日本においても法改正の動きもあるようなので検討してはどうか。	国において、電動キックボードの具体的な方向性が定まっていないこともあり、現段階ではエコツーリズムの中の環境分野における環境の一つのテーマとしたい。
5 4 頁の「具体的施策と取組内容」の①で、「三大観光である「保津川下り」や」とあるが、三大観光はトロッコ列車や湯の花温泉も含まれるため、「三大観光の一つである」としてはどうか。	御指摘のとおり、「三大観光の一つである」に修正する。
5 7 頁の「施策（5）（仮称）環境政策情報発信・交流拠点施設の整備」は、どういった施設で、どこに整備されるのかが分かり難い。	（仮称）環境政策情報発信・交流拠点施設は、市内における環境関連事業の創業支援、情報発信、交流拠点、活動拠点となる施設で、環境に配慮した新たな商品開発や環境関連団体に使っていただくこととしている。場所については、旧商工会館の向かいの建物を市が取得しており、令和4年度及び令和5年度に整備できればと考えている。
5 8 頁のコラムの KAMEOKA FLY BAG Project で巨大エコバッグをクレーンで釣り上げたとあるが、具板的な実施時期を明記した方がよいのではないか。	御指摘のとおり、事業実施時期を明記する。
6 3 頁の「施策（5）多文化共生における環境啓発の推進」に「外国につながる人々」とあるが、先日、かめおか多文化共生センターから全戸配布されたチラシには、「外国人の相談窓口」というタイトルとなっていた。どちらかに統一すべきではないか。	亀岡市環境基本計画推進会議の委員で多文化共生の取組を進めておられる方の御意見を踏まえ、帰化された方や国際結婚をされた方などを含めて「外国につながる人々」と表記している。

63頁の主な指標（１）に「歴史的・文化的な」とあるが、「歴史的・文化的な」を削除してもよいのではないか。歴史的・文化的なものに限定すると、そこに関連する部署のみしか出前授業・出前講座をやってくれないのではないか。	出前授業・出前講座は、様々な部署で実施されているが、今回の指標は環境基本計画に関連する代表的なものとして挙げている。それ以外の環境関連の出前授業・出前講があった場合は、進行管理の過程でお示ししたいと考えている。
63頁の主な指標（１）について、年間50件の出前授業・出前講座を全ての小中学校で実施することは厳しいのではないか。学校では、ほかにも様々な教育事業があるので、ここで成果指標として掲げてしまうことで、学校が対応しきれなくなると思う。対応しきれなくなると、複数の事業をまとめてやってしまうので、結局、個々の事業の内容も薄くなってしまう。	出前授業・出前講座は、小中学校のみを対象として実施しているものではなく、地域組織も対象として実施している。本計画の成果指標に挙げることで教育現場の負担につながるものではない。環境に関する普及啓発を進める機会づくりを拡大していこうとするものと考えている。
計画本文には、様々な条例や宣言の名称が記載されているが、それらの説明はどこにあるのか。	巻末の用語解説で説明する。
全体的に片仮名表記が多い。環境行政に携わっている方なら当たり前の言葉なのかもしれないが、市民には分からないので、用語解説が必要である。	巻末の用語解説で説明する。
用語解説が巻末となるのであれば、用語解説に誘導するような表記が必要ではないか。	用語解説に掲載する用語には印を付けるなど、用語解説を参照しやすいよう工夫をする。
パブリック・コメントについて、用語解説を含めると約100頁となり、市民が読むにも大変である。公表されるものに要約されたものもあるのか。	パブリック・コメントでは、全ての頁を公表して意見を聴くこととなる。計画の目的や概要を記載したものも公表される。

3 閉会